

# 中小企業振興基本条例が果たす 中小企業振興の役割

～条例の推進機関としての中小企業振興円卓会議のあり方～

松山市中小企業振興基本条例施行記念シンポジウム

1 2014年7月28日

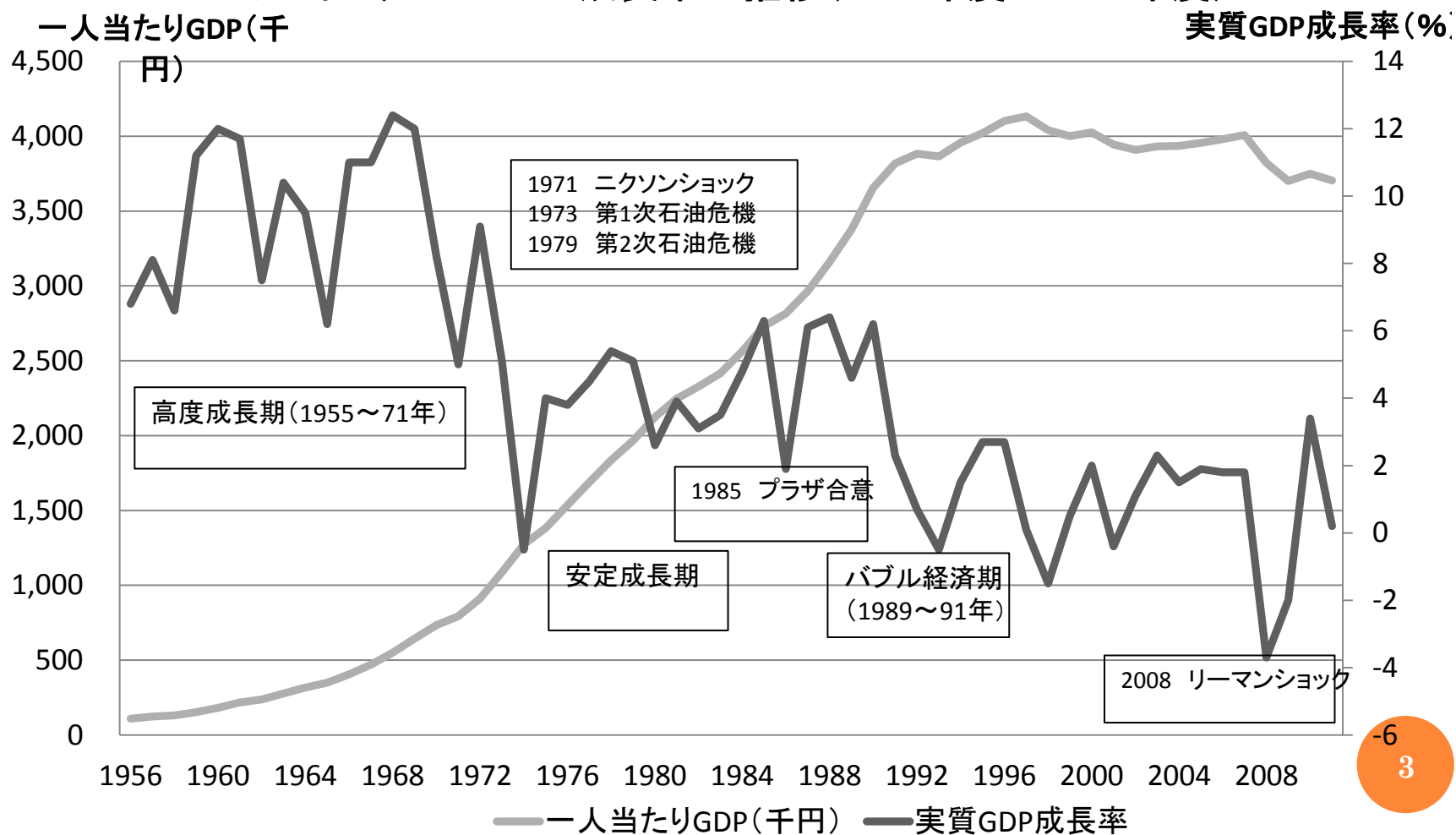
慶應義塾大学 経済学部 植田浩史

# 今日の話

- 中小企業への期待と中小企業振興基本条例
- 地域と中小企業を変える～中小企業振興基本条例の役割
- 中小企業振興円卓会議～中小企業振興基本条例の柱、出発点

# 長期的に見た日本経済

## 一人当たりGDPとGDP成長率の推移(1956年度～2011年度)



(出所)内閣府『経済財政白書』より作成。

# 最近話題になった「全国1800の市区町村のうち896が崩壊」という報道

地方圏での格差の拡大⇒より深刻化する中山間地域周辺地域…

## 地方圏

製造業工場の撤退  
公共事業の減少  
農業経営の困難  
⇒働く場所が減少⇒人口減少  
⇒生活インフラの減少  
⇒人口減少…⇒⇒地域経済、地域社会、自治体の崩壊

## 大都市圏

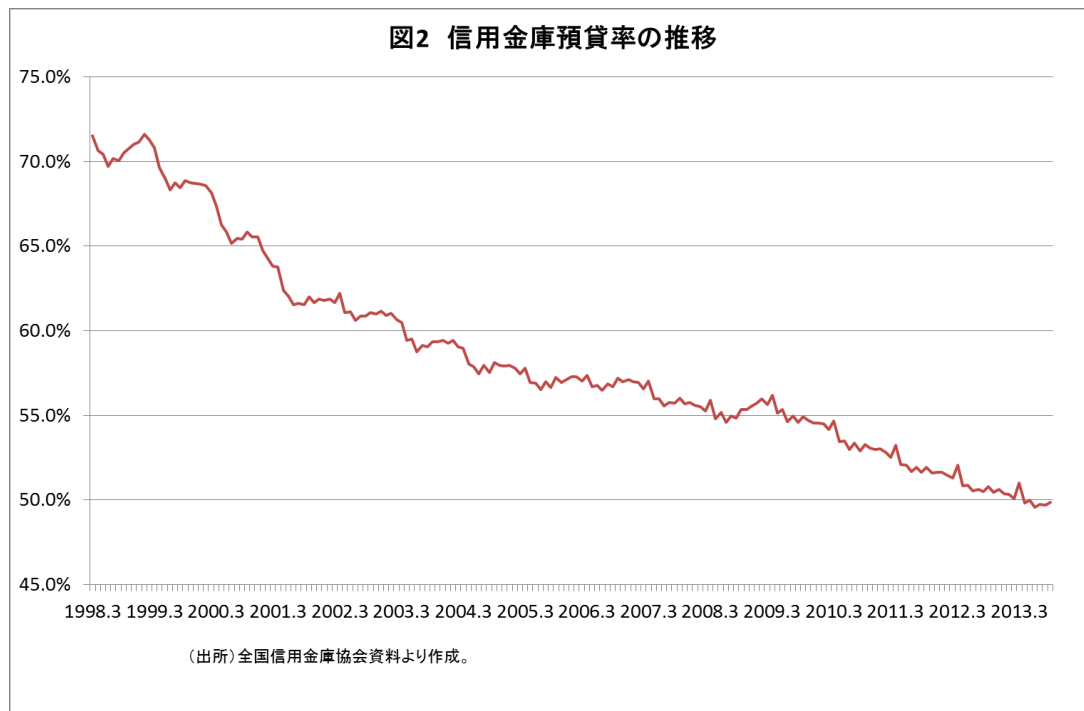
地方圏からの人口吸収⇒正規雇用の減少、高生活コスト、子育て困難、生活基盤の変化…

高齢化

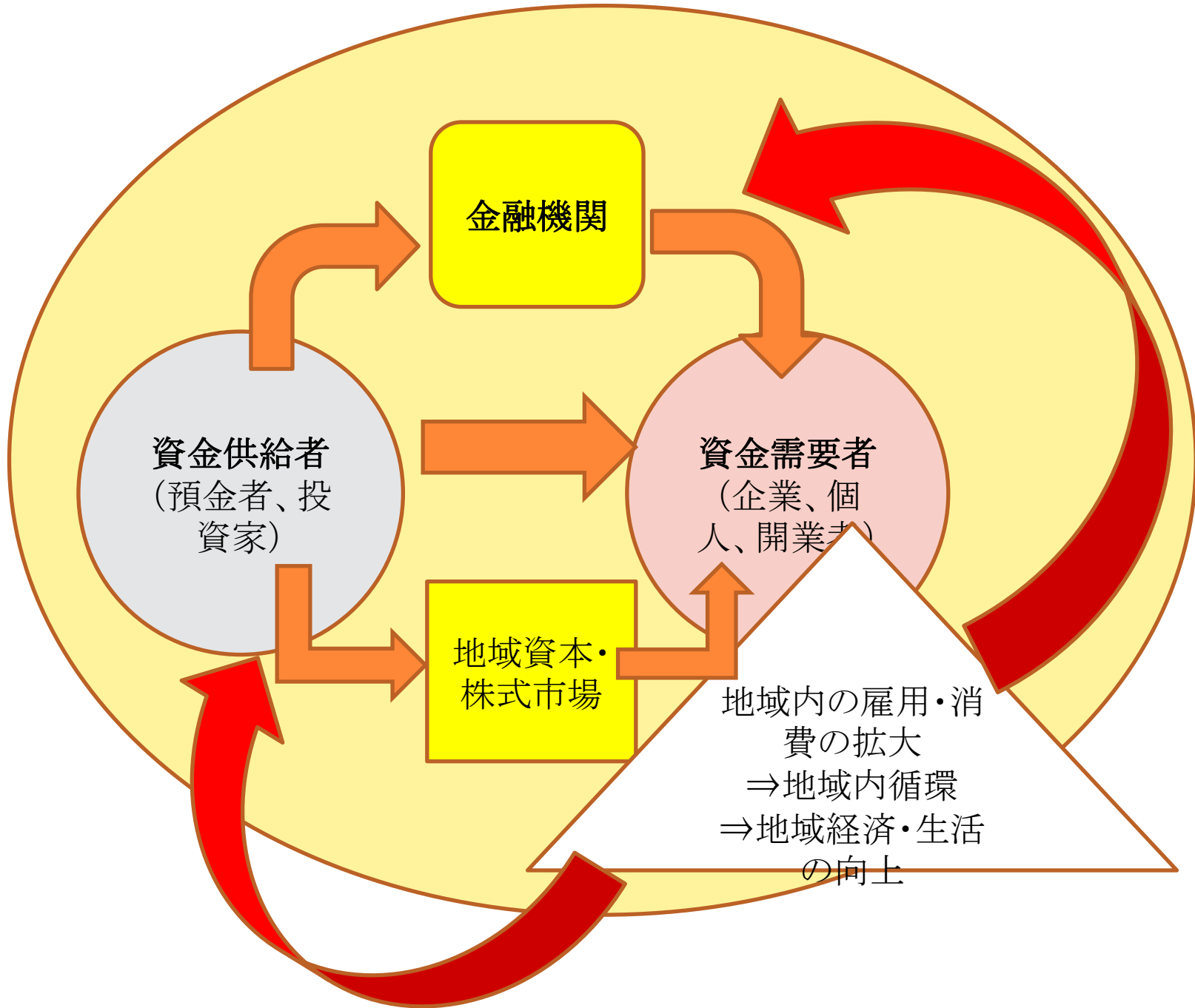
日本経済、日本社会の停滞  
マイナス成長、未来が見えない

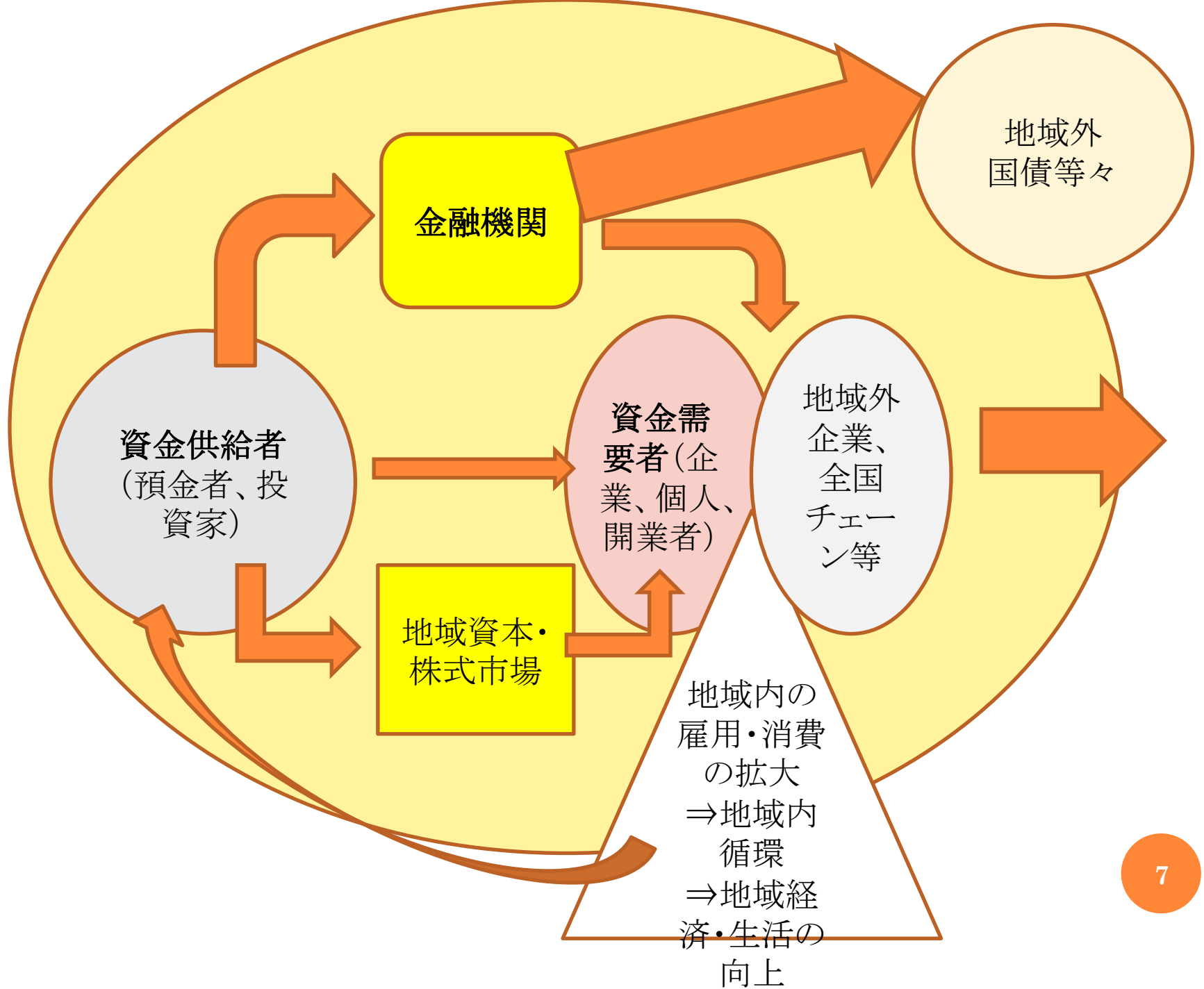
少子化

# 地域内での資金循環機能の低下



預貸率とは、金融機関の企業や個人への貸出金を、預金で割った数字⇒信用金庫では数値が高いほど地域内で資金が循環していることを意味している  
→低下しているのは、資金の地域内循環が低下していることを示している





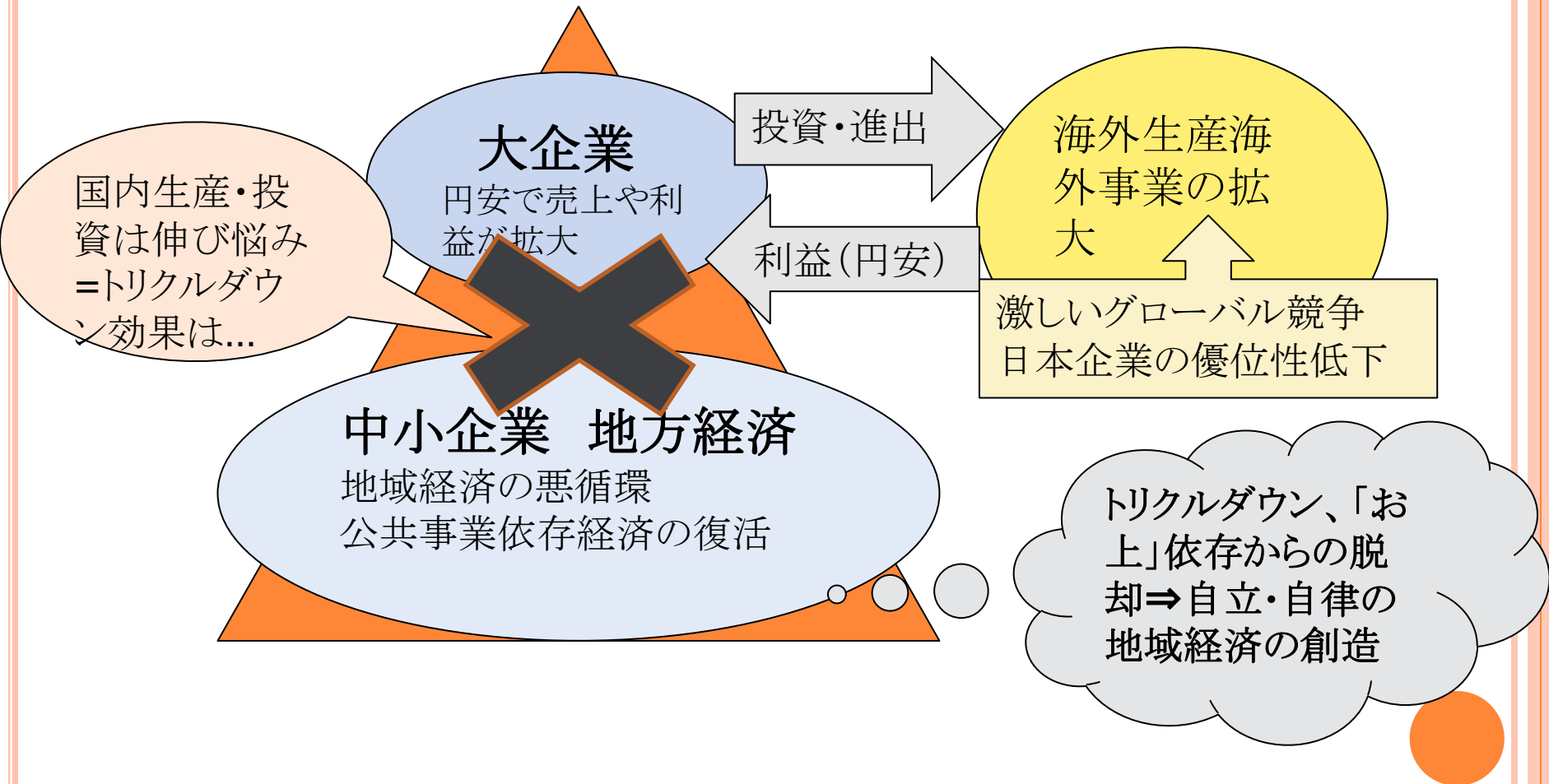
# アベノミクスで日本経済はどう変わったか？

## 置き去りにされている地域経済、中小企業

- 円安による輸出拡大 ⇒ 輸出が急増、にはなっていない  
海外生産、海外展開が定着し円安では日本に生産が戻らない
- 企業収益の拡大 ⇒ 海外展開している企業の円換算での販売額、利益は円安で急増 ⇒ 大企業を中心に給与の引き上げ、株価の上昇 は一部で起きつつも……
- 国内生産の拡大、所得の増加、地域循環の拡大 といった波及効果は不十分 ⇒ 企業間、地域間格差拡大
- **大企業がもうかれれば、中小企業に波及する(=トリクルダウン効果) ⇒ 通用しない時代に**



大手企業の2013年度の業績「好調」⇒「追い風参考」  
大企業の競争戦略⇒地域や既存の取引先との関係の見直し



# 地域経済、日本経済の要としての中小企業への期待

- 多くの地域で中小企業が地域の雇用、経済循環を担い、住民の生活を直接・間接に支えている ⇒ **地域経済を活性化させるためには、地域に存在する中小企業が元気に企業経営をし、地域の資源を利用し、雇用を増やす**
- 望ましい姿 中小企業の安定的持続的発展⇒地域資源(人材、技術、モノ、カネ...)の発掘、育成、利用⇒地域循環の高度化
- 現実の姿 産業構造・経済構造の変化、高齢化・人口減少・空洞化等による地域の活力衰退、に対応できない中小企業

⇒ **課題**

**①中小企業が元気になり、地域経済活性化に貢献**

**②そうした中小企業を地域がサポートしていくこと**

**→中小企業憲章、中小企業振興基本条例の重要性**



中小企業振興基本条例、中小企業憲章の第1の目的は、中小企業が安定的持続的に経営を行い、地域社会、地域経済の要としての役割を果たせるようにすること

- 条例が期待する中小企業？
- 第1に、安定的な持続的な事業を行う企業⇒地域経済循環、地域資源の活用、雇用、地域活性化・・・
- 第2に、中小企業が事業活動しやすい環境を地域で創っていくことに関心を持ち、主張する企業⇒自社にとって望ましい環境は多くの企業にとっても望ましい環境、地域を変えていく中小企業
- 第3に、地域で信頼される企業づくりを行っている企業=事業内容、ボランティア等々⇒地域の誇り

# 地域産業政策、中小企業政策のパラダイム転換

## 地域にとっての中小企業という視点が弱い

### ・高度成長期以降の中小企業政策の位置づけ

=産業政策 中小企業庁は経産省(通産省)の一部局、中小企業政策ビジョンは通産ビジョンを前提に

成長・強化のため 競争力を強化

構造調整(衰退産業)

行政の縦割り 商・工・サービス業は中小企業庁、建設業や農林水産業は... 社会福祉法人は...

政治の影響

⇒地域の経済、社会、生活、雇用、文化、歴史との関係で地域産業、中小企業の役割を考えることが弱かった(=その必要があまりなかった⇔ヨーロッパとの違い=地域の社会・政治・経済・教育の担い手として重視)

日本では深刻に考えなくても中小企業数は増えていた(~1980年代半ばころまで)、リーディング産業が存在し地域経済や中小企業を引っ張っていた(~90年代、2000年代まで)

財政的「余裕」の存在

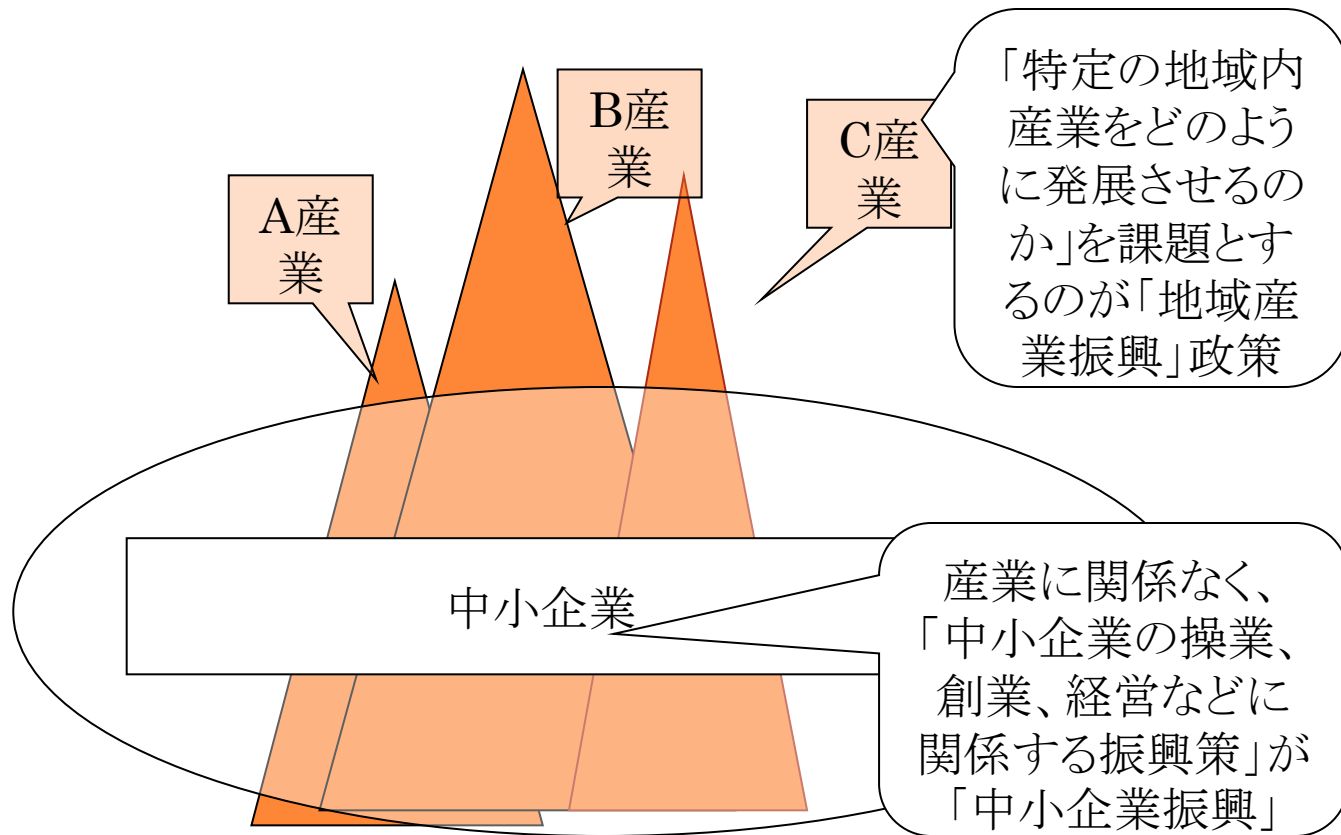
⇒日本の経済、社会が2000年代に大きく変化=成長産業の喪失、財政危機、「格差」拡大、中小企業減少

⇒中小企業の位置づけもパラダイム転換が必要 **地域から中小企業を考える**



# 地域経済政策

## 「中小企業振興」と「地域産業振興」



# 「中小企業」を切り口にした地域経済振興、 地域産業振興の重要性

- 「中小企業振興」 産業の範囲を特定せず、中小企業の新たな取り組みを支援⇒新たな取り組み、創意工夫を実現できる場と条件を支援＝個々の中小企業を出発点とした施策
  - 「中小企業」の範囲は 商・工・サービス業に限定されない⇒農業、社会的企業、福祉等々
  - 既存の振興策(組織化、補助金等々)にとらわれない⇒産業連携、企業連携、問題解決、情報提供など
- ⇒中小企業振興基本条例は、地域視点、中小企業視点の新たな地域経済、地域政策



## 条例の役割 中小企業と地域の変革で強い地域を創造

- 地域に、どのような企業が、どのように頑張っていくことが必要であり、それに対して地域がどのように支援していくのかを明示
  - ⇒中小企業自身が環境変化に対する事業革新や社会的役割を自覚、地域への意識などの面で積極的に＝企業家、地域企業人として成長を
- 企業、行政、支援機関等の中で新たなネットワークを形成し、新たな経済を創造していく⇒関係がなかったものの中で新たな関係が形成され、地域内に新たな価値の創造、生産・消費、モノ・カネの流れが
- 新たに企業が生まれる、企業が新しいことにチャレンジする、新たな雇用が生まれる、など地域経済の活性化を目に見える形で進めていく
  - ⇒中小企業振興基本条例が近年多くの自治体で制定を
  - ⇒地域経済の危機感と条例への期待
  - ⇒有効に利用されている地域は・・・多いとは言えない
  - ⇒役割への認識不足、役割を実行する仕組みの未整備

## 中小企業振興基本条例の役割と課題、可能性

- 産業振興、地域経済振興、中小企業振興の重要性⇒松山市の現在とこれからの課題を解決する重要な役割を担う
  - ・現在の問題、将来にかかわる問題、将来生じてくる問題、について実態に即した把握の必要
  - ・産業振興、地域経済振興、中小企業振興の政策としての重要性の認識を広げる⇒多くの住民、学生、機関などとの協働と役割分担＝新宿の総合力で対応
  - ・重要な役割を担う人づくり⇒役所、企業、専門家、機関・団体、等々





# 中小企業振興基本条例の役割と課題、可能性

- 新しいパラダイムの地域経済振興、地域産業振興、中小企業振興 ⇒ 既存の枠組み、延長線上の施策では対応できない
- ・ プロダクトアウト型の施策からマーケットイン型の施策へ = 上から降りてくる施策の利用から地域に合った施策の創造へ ⇒ 「御用聞き」「調査」「協働」による施策づくり
- ・ 創造型の施策 地域資源の発掘・発見・創造+活用、従来の業界や関係を超えた新たなネットワーク
- ・ 地域資源を生かした地域からの価値の創造
- ・ 行政の専門性が問われる時代 行政担当者のレベルによって実効性が大きく左右される



# 中小企業振興基本条例の役割と課題、可能性

- 農業、製造業、商業、サービス業など多様な産業が存在している中核都市型の地域経済振興、地域産業振興、中小企業振興⇒モデルがない、複雑、目標設定の困難⇒一つのモデルを作っていく必要性
- ・都市構造の複雑さ 地理的多様性、産業構造の複雑さ⇒大都市問題から中山間地域問題まで
- ・社会構造の変化 地域経済社会の課題 高齢化(雇用、生活…)、若者が安定的に働く場(雇用条件、生活…)、多様な社会的ニーズの存在⇒社会的問題と経済問題をどのように関連づけていくのか
- ・産業の多様性、都市の特色を活かした地域からの価値創造
- ・都市における商店街のあり方
- ・新産業創出、新企業創出の場



# 中小企業振興基本条例の役割と課題、可能性

- 地域の企業、企業支援関連機関、経済団体、大学、金融機関等々とのネットワークの構築⇒共通認識、役割の明確化・共有化、人材育成⇒10年後20年後の松山市の経済・産業をリードしていく人材をどう育成するか
  - ・企業、機関、団体、学校、金融機関が集積⇒それぞれが動いている⇒共有化・共通認識
  - ・将来の人材育成の必要性⇒役所、企業、専門家、機関・団体、等々



# 地域産業政策を創造する仕組みと人材づくり 「円卓会議(振興会議)」の役割

## ・地域産業政策を創造する仕組み

- ・行政、関連機関、企業、専門家等の協働で実施＝問題の複雑性、地域内の力で解決

- ・「中小企業振興会議」「産業振興会議」・・・

①課題意識を高める場⇒調査などによる地域経済、地域産業、中小企業の課題の共有

②協働の場⇒振興会議(円卓会議)の運営の工夫と生きた討論⇒生きた活動への展開と議論の広がり

③成功の場⇒支援や新しいネットワークの形成などによって、成功する企業を生み出していく⇒新たな事業展開の可能性に広がりと実際の成功事例の積み重ね

## ・求められる「人づくり」

- ・行政、企業、関連機関、市民、専門家等

- ・協働、地域への問題意識

- ・専門性



## 松山市 「円卓会議」の画期的な点と期待

- ①条例制定以前から、その重要性を認識し、準備してきた⇒他地域の事例から学ぶとともに、他地域にないものを創造
- ②中小企業振興基本条例の具体化を進める場であるとともに、創造の場としての位置づけ⇒今日地域で求められる中小企業振興の課題にとって重要
- ③市職員や委員の皆さんのモチベーションの高さ

- 施策の科学性、具体性、先進性
- 計画、実施、分析⇒問題意識の共有、関係者の学習

条例

- 「協働」の体制
- 問題意識の共有と学習、成長の場
- を総括し、発展させる場
- 実践の場、成功の場

調査

振興会議

- 現状に対するリアルな認識
- 現状把握、分析、方向性、ビジョン
- 「協働」による調査→調査結果の共有、活用

変化に強く、豊かな地域に

経済  
づくり

企業  
づくり

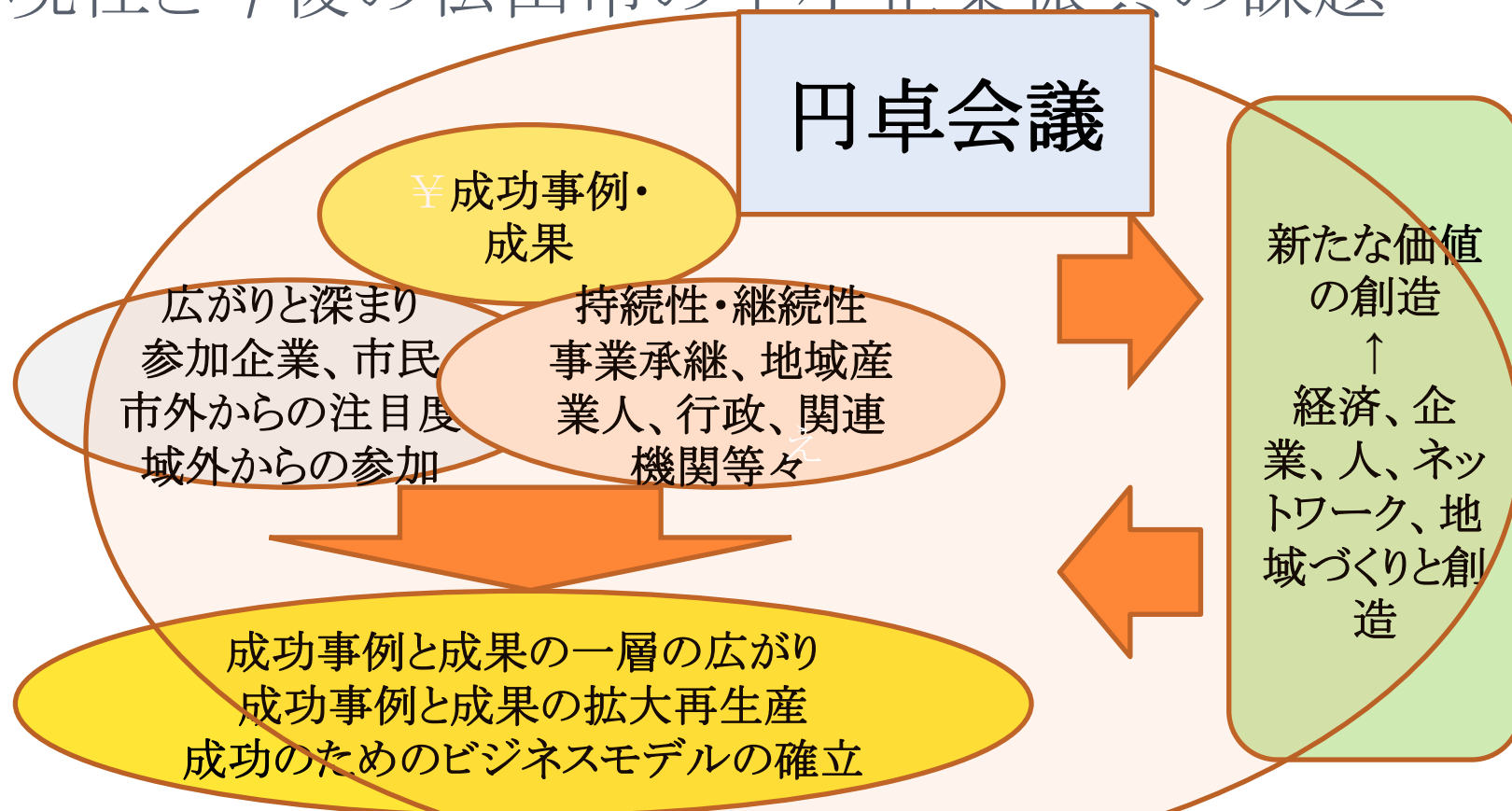
ひとづくり  
企業、行政、  
経済団体、関  
連機関

ネット  
ワーク  
づくり

社会・  
地域  
づくり

中小企業による新たな価値の創造

# 現在と今後の松山市の中小企業振興の課題



- 成功事例が点と線⇒点を増やし、線を太くし、面に
- 多くの企業、機関、団体、市民等への広がり
- 持続性・継続性

